



移住者としての経験を活かした 移住サポートと地域おこし

石井 智代

(にかほ市地域おこし協力隊)

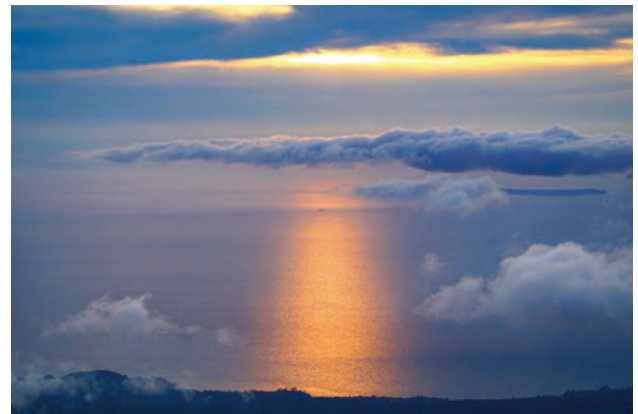
1 私のにかほ市との出会い

2019年の夏、7月の早朝4時過ぎ、千葉から深夜夫が車を走らせて、憧れの鳥海山の鉾立登山口に初めて到着しました。これから登る鳥海山に心躍らせながら車を降りた時の清々しい空気と、登山口なのに海が広がる光景を見た時のあの感動は今でも忘れられません。いつもなら到着後は速やかに支度をして登山を開始するのですが、この日は朝の光に包まれたにかほの街と、その向こうに広がる女神が居るかと思うほどに清澄な海の色に釘付けになり、なかなか登山をスタートできませんでした。ブルーとシルバーが混ざったような何とも言えない澄んだ色の海に、「なんて美しいんだろう」と体の中までスーッと綺麗になるような心地よさを感じました。それと同時に「ここに住めたらいいな」という思いが自分の中から湧いてきたことに驚きました。というのも、登山が趣味の私たちは、毎週末のように夫婦で各地の山に登りながら、将来の移住先を探して10年以上を過ごしてきましたが、「ここに住みたい」と思う場所にはまだ出会えずにいました。もしかしたら移住したいと思う地には一生出会えないのかもしれない、と不安に思うことすらありました。

交通の便から考えると関東からはそれなりに遠く、親戚縁者もない私たちにとって、秋田県にかほ市は未知のエリアでした。この、初めて「ここに住みたい」と思ったにかほ市について知るために、インターネットで調べられる情

報を可能な限り探し、登山も兼ねてにかほ市には何度も通いました。

「住まい」、「仕事」、「家族」と色々乗り越えなければならぬことはありましたが、めでたく2022年春、にかほ暮らしをスタートすることができ、地域おこし協力隊として「移住リエゾン」の活動が始まりました。



(鳥海山登山口からの澄んだ海と夕日の柱)

2 移住リエゾンとの出会い

移住リエゾンの「リエゾン」とはフランス語で「橋渡し」という意味で、移住者とにかほ市を繋ぐ架け橋になる存在です。移住するにあたって、いくつかの壁を乗り越えるプロセスで何度か心折れそうになる中、私たちの心を繋ぎ続けてくれたのが先輩「移住リエゾン」の存在でした。頻繁にかかほ市に通うことができない私たちのために空き家を探してくださったり、にかほ市を訪れた時には私たちが興味ある分野の方や移住先輩の方と繋いでくださったり。他の移住候補地を検討する理由が無いほどの心の繋

がりを作ってくれたのが先輩「移住リエゾン」の方たちです。やはり「移住」の最後の決め手は「人」との繋がりで。

空き家探しなどで何度かにかほ市に通うことになりましたが、自分たちを待っていてくれる人が居るといふ思いは長い道のりも楽しみに変えてくれました。



(移住体験の際に先輩移住リエゾン(中央)と登った鳥海山 左が私)

3 秋田の人の温かさ、人との繋がりに触れて

移住して感じることに、それは人の温かさです。秋田の方はどちらかというとシャイで奥ゆかしい方が多いと思います。西の地方の方と比べると、初対面ですぐに打ち解けるのは難しいかもしれませんが、けれど暮らしてみても感じることは、外から来る私たちのような「よそ者」に対して興味を持ってくださっていて、こちらからきちんとご挨拶していけば、温かく受け入れてくださる方たちだということです。自分が何者でどんな想いをしているかをきちんとお伝えすれば、その想いをしっかり受け取ってくださり、応援までしていただける、そんな方たちとの出会いに溢れた1年を過ごし、秋田に、にかほ市に移住して本当に良かったと思う日々です。

そして、ここには人生をしっかりと生きている方がたくさん居ると感じます。2007年から放映されている「小さな村の物語イタリア」という番

組をご存知でしょうか。イタリアの田舎の小さな村の、そこで暮らす人々の、気候や風土に生活リズムを合わせ、家族や友人を大切に、心豊かに暮らす、ありのままの時間や日常をカメラに収めた番組です。そこには人間本来の暮らしがあり、都心部で暮らす人たちが忘れてしまっているかもしれない、「美しく暮らす」、「美しく生きる」ということを思い出させてくれる番組です。にかほ市に暮らし様々な方と接する機会をいただく中で、「にかほって、小さな村の物語イタリアみたい!」と思いました。嬉しいことも悲しいことも色々経験され、そして今この時をしっかりと生きている方たちとの触れ合いは私の人生を豊かにしてくれています。これはもしかしたら自然豊かな環境の中で心にゆとりができ、人との距離が近くなったからかもしれません。千葉に暮らしていた頃には面倒だと思っていた人付き合いが、今は楽しみのひとつになりました。

また、横浜からUターンされ、今年の5月に着任された30代の移住リエゾン新メンバーと、都会に居たころより人との出会いのレベルが上がっていることもよく会話に上ります。以前は都会に居る方が、物事をリードしている様々な方面の人と知り合える機会が多いと思いましたが、秋田の方が興味ある分野など幅広い方々と出会える機会が多くなり、その出会いのスピードも速いと感じます。そして、そんな素敵な方たちに「にかほ暮らしサポーター」になっていただき、私たちの活動をサポートしていただいています。

4 外から来たから分かる魅力、伝えるということ

人の温かさも、目に映る景色が素晴らしいものだらけだということも、空気が澄んでいるこ

とや水が美味しいことも、全ては私が他地域で生活していた移住者であり、いくつもの比較対象を知っているからこそ感じ取ることができるのだと、にかほ市に来て実感しています。

ここに住んでいる方たちにとっては全て当たり前のこと、その当たり前に得られていることが外から来た私たち移住者からするととても贅沢な環境として捉えられ、私たち夫婦も日々の幸福度がとても高くなりました。

今そこに暮らす人がそこで暮らして幸せに感じていることは、移住先としての魅力になります。そのため、業務のひとつである情報発信については、この宝箱のようなにかほ市の魅力に、市外だけでなく市内の方にも気付いていただきたいという思いで発信しています。SNSやインターネットの発信だけでなく、日々接する地域の方との会話でも、首都圏から移住してどれほど幸福度が上がったかということをお伝えしています。そんな会話をする時、「こんなものが？（こんなものが？）」とか、「そいだばあたりめだぜ（そんなことは当たり前だと思っていた）」と仰る方も顔がほころんでいます。そんな顔を見ると、「やっぱりここが好きなんだ！」と感じ、私も嬉しくなります。

5 移住リエゾン（地域おこし協力隊）としての活動

現在は、10年以上移住先を探してやっと出会った憧れのかほ市に移り住むまでの経験や、実際に移住してみて感じる事に加え、今まで経験した職歴がこの仕事にフルに活かせるという巡り合わせを総動員して、十人十色の移住サポートをさせていただいています。大げさに聞こえるかもしれませんが、移住はやはり人生を大きく変える事柄で、ある意味チャレンジだと思います。その大切なポイントに関わらせていた

だいていることを心に留め、大好きなにかほ市の魅力を大いに伝えながら、その人にとって最適の選択をしていただけるようなサポートをしていきたいと思っています。

それを可能にするために、日々地域の方との関わりを増やしながらかほ市を知ることにも努めています。人との出会い、季節の移り変わり、毎日新鮮なことに会いながら私の中のかほ市は日々更新されています。そのにかほデータを、首都圏での移住イベントや、移住希望者とのコミュニケーション、移住体験に来られた方のアテンドや、移住された方のサポートに活かし、大好きなにかほ市を伝える活動は、本当にやりがいがあります。

私たちもそうでしたが、移住はやはり「人」によって動きます。「心が動かないと住民票は動かない。心を動かすのは『人』だ」という内容のことを『田舎暮らしの本』編集長のコメントで見ることがありますが、特にIターンの場合にはそうだと思います。そのため、移住体験に来られた方には、ここの温かい人たちのお人柄を感じて移住に対する安心材料にさせていただけるように、地元の方との接点をできるだけたくさん作っています。また、にかほの魅力を伝える際には対象が自然環境や風景だったとしても、単に自然環境などを伝えるのではなく、その中に「人」の存在を入れるように心掛けています。そして何より大切なのは、移住した後のサポートです。移住してくださった方には移住して良かったと思っていただきたいので、地元の方や先輩移住者さんと繋がる機会を作っています。移住者交流会やご興味のある内容のコミュニティのご紹介などを通して、にかほライフを楽しんでいただけるようサポートさせていただいています。メールやライン、電話や直接のコミュニケーションで、移住者さんが孤立していな

いか、お悩みは無いキャッチできるように努めています。そして、そのサポートも自分だけで行うのではなく、地域の方々を巻き込んで行うことが地域の中での新しい関係性を築くことに繋がり、にかほ市の活性化・地域おこしに繋がると考えています。

また、2年目の今年は、昨年活動する中でもっとこうすれば更に魅力あるにかほ市になると感じたことについて、様々な方の協力を得て行動できるようになりました。ひとつは、羽後町で活動されている地域おこし協力隊の黒田さんが今年の1月に開催した、「夢みる小学校」というドキュメンタリー映画の上映会です。昨年の劇場上映以降、全国で自主上映会が盛んに行われていたこの映画をにかほ市の方にも見たいと思ひ、羽後町での開催告知をにかほ市で行いました。その際、興味のある方が複数おられたのですが、1月の大寒波の時期と重なり羽後町まで行けなかった方がいたことから、にかほ市でも上映会を開催したいと思ひ、所属する商工政策課の職員さんにもサポートしていただき6月に上映会を開催できるようになりました。

この他、鳥海山登山でせつかく秋田県側の銚立登山口に來られる登山者に対して、山形県側だけでなく、秋田県側にも目を向けていただけるような取り組みも行いたいと思ひています。首都圏からの登山者は鳥海山と月山をセットにプランされる方も多く、秋田県側まで足を延ばす方が少ない傾向にあります。その理由のひとつとして情報が少ないこともあるのではないかしら思ひ、観光課のご協力を得て、まずは登山口にかほ市の宿泊や飲食、日帰り温泉の情報や移住に関わるチラシを置かせていただくことから始めることになりました。せつかく時間をかけてここまで來ているのだから、知っていれば

足を延ばす方もいるかもしれません。知ってもらえれば、今回は時間が無くても次回の計画に入れていただける可能性もあります。こんな思ひから、いずれ観光→関係→移住を意識したイベントも登山口で行いたいと考えています。



(令和5年3月開催の移住者と地域住民の
交流イベント)

6 活動にあたり大切にしているふたつのこと

今までもこれからも、これだけは忘れずに行いたいと思ひ掛けていることがあります。

ひとつは、移住する側の気持ちだけではなく、受け入れてくださる方々の思ひに配慮すること。移住する前までの自分を思ひ起こすと、私は移住する側の気持ちしか分かっていなかったと思ひます。特に自分たちの住まいを探す際には、単に物件としての「家」だけではなく、過去から繋がる家人の思ひや地域との関わりの中にある「家」という存在を知りました。外の人を受け入れる側にも気持ちがあり、その気持ちにきちんと配慮することがとても大切です。それは移住者さんの移住後の暮らしに大きく影響する場合があります。今まで営んできた暮らしや受け継いできた文化を尊重しながら、新しい変化を受け入れてくれることに感謝してコミュニケーションを取っていけば、秋田の方はとても懐の深い方たちで、温かく受け入れてくださいます。そんなことも移住される方にはお伝えしたいと思ひています。移住希望者はその他にも決

める事、考える事がたくさんあり、自分の経験を超えたそうしたことまで思いが至らないのも当然です。だからこそ、移住者と地域をお繋ぎする私たちが大切に受け継いできたものなどへ配慮することはとても大切なことです。

そしてもうひとつは、私自身が“にかほライフ”を楽しむことです。私が発信する情報は、私自身の「にかほが大好き」という気持ちに乗せて人に届きます。だから私自身が“にかほライフ”を楽しむことを大切にしています。出会う人々、起こる事柄のすべてに感謝しながらどんなことも楽しいと感じられる心のゆとりを忘れないこと、最初の感動を忘れないことを気持ちのどこかに置いています。

7 定住するという事

このように日々活動しながら、任期満了後にどのように生きていくかを3年間で描いて実行するのが地域おこし協力隊です。地域おこし協力隊の定住率が全国ワーストの秋田県ですが、任期後の生業を作ることができれば、もっと定住できる人が増えるのではないかと思います。

私も夢やチャレンジしたい事柄を心に抱いて移住しました。そのひとつとして「発酵食カフェを開いて地域の方の憩いの場を作る」という夢を持っていました。その夢はにかほ市で活動する中で少しずつ変化しています。今は、顕著に人が減っていくことへの対応に真摯に取り組んでいる「人」が居る地域で、外からの人がその地域に足を運ぶ理由になる場所や足を留める場所としての機能と、その地域の人が立ち寄ることができる憩いの場としての機能を併せ持つ場所づくりを思い描いています。このように、ここに暮らし活動できたことで、ここに必要な事柄が分かり、北海道千歳市にある「ザ・バードウォッチングカフェ」をモデルにしたカフェ

で、米粉やそば粉を活用した軽食やここの美味しい水に合った珈琲を提供する、というように具体的なイメージを描けるようになりました。

任期は3年、いつまでも構想だけをしているわけにはいきません。定住のためには暮らしを成り立たせるための収入も必要です。それらをどうクリアしていくか、あと2年で具体的にスタートできる準備をしたいと思います。そして、地域おこし協力隊としての3年間の活動だけでなく、退任後も地域のためと自分の楽しみの両方を叶える活動をしていけたら、私の移住は思っていた以上に素晴らしい人生の経験になると思います。地域おこし協力隊として、このチャレンジができる機会や環境をいただけていることにとても感謝しています。

このように私自身の今後を描きながら、私と同様に3年の任期後に定住するための道筋を作らなければならない市内の協力隊員たちの応援もしていきたいと思っています。移住リエゾンとして、同じ移住者で何かにチャレンジしている仲間として、そしてにかほ市民として。

<担当者から一言>

にかほ市では、現在9名の地域おこし協力隊が活動しています。

活動の内容は隊員により異なりますが、にかほ市の土地や人への愛着はみんなに共通しているものです。

良い意味で「よそ者」として、その視点から地域の魅力を掘り起こして発信するだけでなく、住民との交流も大切にして地域活動を行う隊員たちと一緒に、みんなに愛される地域づくりに努めてまいります。

(にかほ市総合政策課 館岡 里海)